

■佐野小学校区 第1回きずなづくりトークの意見概要と方向性

テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」(※●は市長発言)

5月24日 北上文化プラザ

発言者	現況・課題	方向性・対応策・要望
◆第1部「地域座談会」		
佐野自治会	<ul style="list-style-type: none"> ○佐野では今年新しい防災訓練の方法を作成している。 ○佐野と見晴台は地域の特性が違うので、お互いに助け合う気持ちを持ち、連携がとれば安心。 ○佐野は上から下まで4キロあるので地震でも水害でも小学校に集まるのは危険。 ○組単位の小避難所を10か所以上作り、組の代表を決め、どこに集まったら良いかを決めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○12月1日の防災訓練は住民全員参加の心づもりで行う。 ○これから各団体の長や責任者を集めて会議を行う予定。
見晴台自治会	<ul style="list-style-type: none"> ○見晴台では訓練を年5～6回実施。毎回400～500名参加している。 ○まず役員会・組長会に周知を徹底し、回覧で日時周知を行っている。 ○安否確認のため、避難完了を示す40センチ四方の札を各家庭で玄関先に掲げてもらっている。訓練に出られない人も掲げてもらい、訓練の都度、組長が集計する。札があるところは救助を後回しにする。 ○山本公園を最終的な召集場所にしてある。まず組単位でゴミステーションに集合し出欠確認後、公園まで組長が引率するなど、色々な試みを行っている。 ○急こう配なので足腰の悪い人はすぐに来られない為、今後工夫が必要である。 ○訓練内容は炊き出し、放水など色々行うが、実際に即したものかどうかは疑問。レトルト食品を使用した炊き出しを行うなど、毎回同じことをやるのではなく改善するようにしている。 ○訓練するたびに手際が良くなってきた ○校長にお願いし、小学生対象のAED訓練参加者を募集している。中学生も別途行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○佐野、見晴台、芙蓉台は隣接しているので、協働・協力体制を敷いていきたい。 ○見晴台の防災訓練を見学に来てほしい。

	◇避難場所・避難方法について	
佐野小学校	○災害時の学校の役割は避難所である。 ○地震を想定した場合、見晴台の方たちは佐野小学校には来ないで、自立して避難生活を送るという想定でいいか。	
見晴台自治会	○災害時は通学路も分断されると想定している。ある程度の収集がついてから小学校に避難すると想定している。	
佐野小学校	○実際には小学校には佐野地区の住民が集まると考えているが、どうなのか。	
佐野自治会	○昼、夜、児童が学校にいる時、など時間帯による避難方法の想定をするべき。 ○学校は生徒がいる昼間の訓練が大事。 ○たとえば夜災害が起きた場合は、佐野地区は食料の不安はないので、学校に集まる必要はないと考えている。	
民生委員	○佐野小学校が、避難場所の総本部ということは承知しておくべき。	
見晴台自治会	○携帯や電話など連絡方法が遮断された場合が問題であり、衛星電話など市本部との連絡手段が必要。 ○時間帯によりケースバイケースで想定しておくことが大事。	○消防団は無線を利用している。免許所有者もいると思う。見晴台に1~2台おいてもいいと思う。佐野は山があるので使える周波数も多いと思う。(消防団)
環境美化推進委員会	○ゴミステーションに組単位で集合とあるが、組長が組員を一番把握している。 ○有事の際はまずゴミステーションに集まるという、小さなことから徹底してやる。	
消防団	○見晴台に住んでいる。佐野と見晴台は正反対な面がある。防災訓練を通じて連携を図っていくのが一番いいと思う。	○訓練を見学に行くことも一つの方法(ファシリテーター)
	◇要援護者の避難について	
民生委員	○市の要請を受け、要援護者調査を実施した。町内会にも報告、連携していきたい。 ○市の方に連絡してくれれば、民生委員にも通知が来るので、ぜひ連携してほしい。	○町内会長と民生委員がタッグを組むとうまくいくところが多い。(ファシリテーター)
民生委員	○1丁目では1人暮らしの人が少し増えている。昼間は家族がいるなど、まだ家族内でなんとかなる家庭が多い。	

	<p>○見晴台には「やじうまクラブ」があり、民生委員と自治会の間といった存在で、熱心に活動している。連携も良好。</p> <p>○精神的な病の人は、避難できないのではないかと心配している。</p>	
民生委員	○佐野は同じ名字が多く、基本的にはみな親戚なのできずなが深い地域である。	
民生委員	○子どもや未就園児を対象に活動している。命は皆同じだと思う	
民生委員	○佐野は進歩していると思う。「向こう三軒両隣」という考えはとても大事。高齢者の事を気にかけてくれるとありがたい。	
◆第2部「市長との意見交換会」		
市長	<p>●佐野と見晴台は建物が密集していない、地盤が固いなど、三島市内では災害に強い地域であるが、中心市街地から遠く、情報が届きにくいこと、けが人が出たときの対応などが課題。</p> <p>●平成13年時点の東海地震の建物被害想定によると、三島市で最も少ない地域。</p> <p>●見晴台は学校から遠いこと、家族間の連絡をどうとるかが課題。</p> <p>●三島市内に救急車は4台しかないこと、阪神淡路大震災の時には主要道路がほぼ通れなかったことなどから、けが人が出たら自主防災会で救出をして病院に運ぶ想定が必要。消防団は火災の対応をするのであてにしていけない。</p>	<p>●本部の場所を決めておいて、情報が集まるようにする。その情報を基に動くことが大事。連絡網体制は築いておくこと。</p> <p>●避難所である小学校にMC無線がある。町内の被害状況を市に報告して欲しい。</p> <p>●トラクターを持っている方には救出作業を手伝ってもらおう。</p> <p>●佐野は建物が古く倒壊が考えられる。ディグを使った訓練を行ってほしい。12月1日の訓練の前に自治会長（自主防災会長）、組長らでディグを試した上で訓練メニューを決めると良い。</p>
三島市危機管理課	<p>○「ディグ」とは実際に避難路を歩き、どこが安全か、ブロック塀がどこにあるか、この家は古くて危ないだとか、瓦が落ちてくる心配がある、看板がどういう状況でついているなど、皆で検討しあいながら町内を歩き、避難路の安全確認をしたうえで、地震があった時にどこを通るべきか、生活するにあたってどういうことをすべきか、話し合うこと。</p> <p>○家庭内ディグもある。家の配置図を書いて、家具はどこか、扉は簡単に開くか、</p>	<p>●ディグはイメージ訓練。具体的な訓練として、炊き出しや消火器訓練などがあると理解して欲しい。</p> <p>●自主防災会会長の会議の時に、災害時の市民行動計画、各自主防災会の災害時の行動マニュアル、自主防災会の訓練の実施要綱を渡してある。</p> <p>●それぞれ住民の皆さんに読んで、それぞれの訓練のしかたや</p>

	<p>もし強い地震があったときガラスは割れるか、その際どういう行動をするか（布団を頭からかぶる）など色々なタイプのディグを行うことが出来る。</p> <p>○同様に学校で地震にあった場合についても、皆で話し合っって考えることが大切。</p>	<p>住民の行動計画に反映するよう検討して欲しい。</p>
子ども会	<p>○他の地域と違い学校まで子供で 40 分、大人が 30 分くらいかかる。もし通学路が倒壊すると、小学校にお願いするしかない。</p>	
消防団	<p>○今年、消防団のマニュアルを作成する。</p> <p>○災害時、消防団員は基本的にまず詰め所に集まる。作業服を着ていると、消防団として活動中であるという意味。</p>	
見晴台自治会	<p>○災害時の要介護者支援を躊躇している。</p> <p>○障害者 1 級 2 級 3 級など限定された中で打診して対象者をリストアップしているので、全体の何%か分からない。また、小さい子どものいる母子家庭なども網羅して欲しい。</p> <p>○現役の人は昼間不在。平日の昼間、年寄りと子供しかいないときが一番心配。</p>	<p>●昼間に人がいないときでも、安否確認だけはやって欲しい。</p> <p>●災害弱者は手を上げた人を優先的に助けるとか、名乗り出た人を助けるなど町内で決めていって欲しい。</p>
見晴台自治会	<p>○傾斜地を対象とした三島市の防災計画はあるのか。市全体ではこうなっている、その中で地域としてこの辺を重点的にやって欲しいというような周知を徹底して欲しい。</p> <p>○災害時の状況によっては、手をあげたから助けるというわけにはいかない。</p> <p>○会長だけリストを持っていても意味がない。災害に関しては個人情報保護を適用外にするという動きも新聞で見たので、三島市でも自治会内で情報を共有するなどの対策をぜひやって欲しい。</p>	<p>●災害時の自主防災会の行動マニュアルがあるので、具体的に検討して欲しい。</p>
民生委員	<p>○現在、要援護者の調査をする際、対象者には個人情報を市、自治会長、自主防災、民生委員、組長に知らせる旨を尋ね、了承を得ている。</p>	<p>●災害弱者情報を個人情報保護から適用除外にするという話は、まもなく国からくるのではないかと思う。</p>
佐野自治会	<p>○防災訓練はただ型どおりで意味が無いので、ディグを参考にこういう場合はこう</p>	

	すると、住民に新たに説明していきたい。	
佐野自治会	<p>○立地は三島市役所より裾野市役所が近い。長泉町など近隣の市町と情報の共有などやっているのか。</p> <p>○民生委員の方は、介護も把握しているなら、地図上で要介護の家に印をつけておくのはどうか。組長もすべては把握していないのではないかと思う。自分の命を自分で守るのは基本だが、守れない方もいる。</p> <p>○消火栓の位置や操作を 100%知らない。昔から三島市民は危機意識が薄い。意識をどう持たせるかが大事。</p>	<p>●消防の広域化の取り組みをしている。始めは8市8町で検討研究したが、広すぎてその効果に疑問が生じた。</p> <p>●三島市消防本部に2市1町（三島市、裾野市、長泉町）で別に通信指令本部を作っていこうとしている。</p> <p>●互いに助け合う仕組みを構築するが、絶対的に救急車の数がない。災害時、地元住民の車が救急車になると覚悟してほしい。</p> <p>●災害は忘れたころにやってくる。忘れないことが一番大事。一昨年岩手県の山田町に行ったとき、訓練に出た人たちが津波から助かったという話を聞いた。日頃の訓練に出ているれば災害時訓練内容を思い出す。</p>
体育振興会	<p>○佐野、見晴台の2地区を受け持っている。</p> <p>○メンバー約30名。何か指示された場合にリーダーシップをとって行動できるよう人材育成をしている。</p> <p>○春の遠足など会長・副会長がイベントを考え実施してきたが、メンバーが企画から考え、皆をまとめることを進めている。</p> <p>○年配者中心の「やじうまの会」からも今度の遠足に参加者があり、サラリーマン家庭と年配者との交流も出来ている。</p>	●体育振興会のなり手がいない地域もある中で、大変素晴らしいと思う。
子ども会	<p>○東日本大震災の時は、子供は学童にいて学校の方でしっかり対処してもらえた。</p> <p>○職場の中で子供を迎えにいけない家はどうかしたらいいのかと話したことがある。</p>	●自主防災会長に渡してある三恵台3年生大西君の県知事賞を受賞した作文を読んで欲しい。
市長	●言いつばなしになっている部分もあるが、自治会それぞれで話し合っ、次のトークではこういう取り組みをしたなど話し合える場になれば幸いである。	